

教育センター学びの丘研修員における学びについて

日高川町立川原河小学校

教諭 龍田 光司

和歌山県教育センター学びの丘研修員として、自身の教員としての資質・能力を高めるとともに、その成果を広く学校現場に還元するため、教育に関する専門的な事柄について、絶えず研究と修養に励んだ。その1年間の学びについて述べる。

研究では、教師主導の授業から児童主体の授業への転換を目指し、複式学級における間接指導から着想を得て、「児童が自ら学びを進める授業スタイル」を提案授業で実践した。その結果、児童の学習に対する意欲が高まり、児童自身が主体となり、児童同士が対話し、協働しながら学習を進める授業へ転換することにつながった。

修養では、多くの経年研修や専門研修、研修員研修を受講した。これらの研修では、大学教授や指導主事をはじめとした専門性の高い講師による講義や、多様なキャリアをもつ教師との対話を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善や、授業におけるICTの利活用等、最新の教育理論について広く深く学びを得ることができた。そして、児童が学校教育の中で主体的に学ぶことができるように、自分自身が主体的に学び続け、教職員同士や保護者、地域住民等の多様な人々と協働しながら専門性を高めていくことが、「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められていることであると、この1年間を通して実感した。

今後も自らが学び続ける教師として主体的に理論と実践を往還させ、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代を生き抜くために必要な資質・能力を、児童とともに向上できるような授業づくりや学級経営を行っていきたい。